

# しのはら歴史便り

篠原地区歴史同好会／浜風会会報 No.15

## 以前にもあった 篠原の合併問題

この篠原地区は篠原村が浜松市に合併して、平成二十三年で五十年になる。しかし浜松市に合併する前に他との合併問題があったことはあまり知られていない。それは舞阪、雄踏、篠原の三カ町村合併問題である。この機会にその経過について、静岡新聞の記事からひも解いてみる。

### 一・勧告は舞阪、雄踏との三カ町村

昭和三十年頃、昭和の大合併の推進に従って、当時の篠原村も合併の気運が盛り上がってきたが、静岡県知事からの勧告は、浜名郡舞阪町、雄踏町との三カ町村を合併せよとするものであった。

昭和三十二年五月、篠原村から加藤末太郎村長等が出席して開かれた合併促進審議会初の合同会議で、勧告どおり合併を決め、同年八月には人口二万五千人を超える大きな町が誕生すると、時の新聞は伝えていた。その後各町村から町名を募集し、「浜名湖町」と決定した。

### 二・当時の各町村の様子(静岡新聞)

舞阪町は漁業を中心に、観光地でもあり、浜名港築港を前提に、今切口の大修理工を目前にした人口九千八十八人の町である。

雄踏町は湖内漁業の中心地で、半農半漁の町であるが、漁業は衰退しつつあるので打開策に苦心している人口一万八百五十人の町である。篠原村は、人口一万一千三百三人と最も多く、玉葱を中心とした農業経営の進んだ村として知られている。篠原村の東海道は日本一の悪道として嫌われ、新国道の建設問題等で紛糾が絶えなかったが、最近一致協力して村の発展に努力している。

### 三・暗礁に乗り上げた合併問題

合併後の役場の位置や警察の管轄権問題等のため、合併準備が整わないうちに、雄踏町町会議員の任期が切れてしまい、新議員の改選が済むまで合併促進活動を中止せざるを得ないことになった。

そこへもってきて舞阪、雄踏両町は大きな関係がある庄内干拓問題が未解決なことにより、合併どころの話でないとい合併への熱が冷め、合併促進協議会は開店休業状態になっていった。また雄踏町協議会議員が新任されたが、合併への熱意がなくなり、消極的となっていた。それは庄内干拓が完成すれば隣接の湖東村と合併した方が得策であるとも言われ始めた。

その上雄踏町長と議長が選挙違反で検挙沙汰となり、合併どころではなくなった上に、三力町村合併をご破算として、可美村、新居、湖

西を含めた新市制へと検討し直したほうが良いとか、雄踏町は湖東村と、舞阪町は新居町と、篠原村は可美村と等、新しい合併案を練り直した方がよいという風評も聞かれた。

### 四・ついに合併は不成立

県知事の勧告で一度は合併推進協議会のテールブルについたが、結果的には各町村が各様の主張を繰り返しまとまらなくなっていた。そして昭和三十五年一月十八日に合併促進委員会を解散した。

その後篠原村は、新国道の建設、旧国道の舗装、更に土地改良事業の推進と同時に、浜松市への合併を決め、前年の湖東村に続いて浜松市へ合併した。昭和三十六年六月のことである。経過は以上のとおりであるが、政令指定市となった今、結果的に三力町村とも浜松市西区に属して同じであるが、もし三力町村がその時合併していたら、私達の生活環境は今と違っていたかも知れない。そこに歴史の綾がある。

### 平成21年度主な活動

#### ★ 山下孝先生講座

- ① 世界文化遺産  
・「ボロブドール遺跡」
- ② 自然信仰について

★本年のテーマ  
浜松市への合併の頃の篠原を掘り起こす

#### ★ 自由研究

- ・遠州屋伝兵衛
- ・「天地人」について
- ・五人組元帳
- ・経済危機とその歴史
- ・保泉寺の火祭り等

#### ★ バス旅行

- ①木曾路、御岳山等
- ②目的地未定

# 春日神社(馬郡町)

馬郡町の氏神さま、春日神社の創建は、後小松天皇の応永二年(一三九五)とされている。現在の壮麗な建物は、昭和八年十月に新築された。その落成記念に、氏子に配布された冊子に記載されている由緒によれば、



往昔仁治元年(一二四〇)の頃、漁師の網にかかった金銅の仏体一尊を引き上げ奉り、一堂宇を建立して祀る。しかし人々蒙昧にして仏像の尊号を知らず、観世音と名付けて年月を経たり。その後永徳元年(一三八一)の秋、諸国行脚の日朝上人(身延山十一世)当所に宿す。夢想に依って彼の仏像を拜し奉るに金銅一尺一寸の釈迦仏に御座せ給う。日朝上人大いに歓喜し、当地の人々を集めて夢想を語り、法華經を授く。これにより日朝上人を開祖となし、泉光坊、大泉坊の二寺を創建す。のち東本徳寺、西本徳寺と改称す。

一寺の建立により、人々挙って神仏の尊く有り難いことを辨え、そして村の守り神としての社を建て氏神

と為すべく、日朝上人に請う。上人奈良の春日大明神を勧請し、神札を奉納して一社を建立す。八月十五日に国土安全、五穀豊穰の祭祀を為す。「神は人々の敬により威を増し、人は神の徳により運を添う」誠なるかな。在所自然に繁昌し村人安楽に住す。

享保八癸卯年(藤田権十郎氏所蔵記録抄)

※ 春日大明神を勧請したことの推察

仏を守護する神々として三十番神がある。

春日大明神は、月の十五日の守護神であり、名神としても知られるので勧請したのでらう。

## 春日大明神

奈良市春日町に鎮座。祭神は武甕槌命、経津主命、天兒屋根命、比売神の四神。古

来春日大明神として上下の崇敬を集めている。平城京造営に際し、藤原氏が一門の氏神、祖

神を三笠山に合祀したのが始まり。のち神護景雲二年(七六八)年に社殿が建てられた。本殿は四つの春日造りの社殿から成る。

第一殿は鹿島神宮から勧請(神仏の分霊を移して祭る)した武甕槌命、第二殿は香取神宮からの経津主命、第三殿は藤原氏の祖神天兒屋根命、第四殿は比売神で藤原氏の女性の祖神である。創立以来藤原一門、さらに朝廷をはじめ上下の崇敬を集め、春日信仰の中心として栄えてきた。社殿は国宝。境内に遊ぶ鹿は武甕槌命が鹿島から乗って来た白鹿の子孫といわれる。なお藤原氏の氏寺は奈良の興福寺。

## 式内社、津毛利神社

遠江国風土記伝(内山真竜)の馬郡村の項に

「朱符の神田の高六石、諸人曰ふ式内津毛利神社は社号変わるなりと、社部に註す」とある。社部の津毛利神社の項には「郷村今切海と為り、考ふる所無し、俗説に馬郡村春日神社を津毛利神社と称す、朱符の神田の高六石、祭日は九月十九日、文和風土記に象嶋の郷中に津毛里社を載す、按ずるに、津守神は海神三座にて、住吉社はなり、底津綿津見神、中津綿津見神、上津綿津見神、墨江三前の大神是なり、新井白須浜に座す住吉社に当り、又長上郡參神野村の社に同じ」とある。

## 考証

參野町の津毛利神社の鎮座地が、古代に敷智郡に属しているとは思われない。敷智郡は三方原台地以西の浜名湖に面した地方である。天竜川と三方原台地の間の下流域は長下郡(和銅二年前は長田郡)に属していたから、もと四十六所大明神と称していた神社を、敷智郡内にあった津毛利神社に比定するのは疑問である。敷智郡内にある馬郡町の春日神社が妥当と思う。前述の遠江国風土記伝の記述からみても春日神社を比定したい。しかし他の文献などは所在不詳から不明としている。(ある文献を参照)

## 参考 式内社

一〇世紀初め醍醐天皇延喜年間に編集された法令集「延喜格」「延喜式」がある。この延喜式の神明帳に記載された神社を式内社といふ社格の一種でもある。敷智郡には岐佐神社、許部神社、津毛利神社、息神社、曾許乃御立神社、賀久留神社の六座である。

# 地租改正と地券

平成二十年度の公民館まつりの折、浜風会は展示会場に、地租改正にもなつて作られた坪井村の大型サイズの地図を展示しました。この地図は大きく傷んでいましたが、坪井町自治会長でもあった山下勝彦氏が中心となつて修復をはかり、貴重な資料となつているものです。



篠原地域には、地租改正にもなつて発行された地券が複数保存されていますので、その一部も取り上げてみます。

## 地租改正の概略

明治維新により、新たな国の体制作りが始められますが、当時の土地税制は混乱の極限に達

していました。そのため、土地税制改革の気運が高まり、政府は地租改正に連なる基本構想を提示し承認されます。主なものとして

- ・ 租税負担の公平をはかる。
- ・ 米納、石代制度に代え金納租税に統一する。
- ・ 土地永代売買禁止を解き土地所有権を公認

これは私有財産制と商品経済を基盤とする近代国家体制に転換を図っていく方針でした。

\* 明治六年七月に地租改正法を公布

\* 同八年 大政官通達 九年中に竣工する。

## 坪井村江間家文書

「浜松市史新編資料編一」に取り上げられている江間家の文書（地租改正関係のもの）

- ・ 坪井村癸酉年田園調入費 明、七
- ・ 地租改正への質問と回答 明、七
- ・ 地租改正取調に付議定書 明、七
- ・ 地租改正一村統計の収穫高取調 明、七
- ・ 提出の雛形 明、八
- ・ 収穫取調 明、八
- ・ 地券大道竿入控帳 明、八
- ・ 地租改正関係の通達 明、九
- ・ 交換米についての御請書 明、九
- ・ 地租改正についての嘆願書 明、九

地租改正法により坪井村でも作業を続けていきますが、この間、収穫の算定や土地の価格を決めていくのに時間を要したことが同

えます。

## 地券

- ・ 馬郡村、刑部市郎平所有の地券から、一反当たりに価格に換算してみますと、

畑 馬郡地内平均 二十三円三十九銭七厘

坪井地内平均 二十九円 十一銭

場所によって地価は異なってきますが、この場合、坪井地内の方がやや高くなっています。

田 馬郡地内平均 五十四円 三銭五厘

(北浦・新開地 二十五円七十九銭七厘)

宅地 四十三円七十七銭九厘

刑部家での地価は田、宅地、畑の順でした。

- ・ 篠原村、袴田忠四郎所有の地券によれば、宅地 四十五円九十九銭二厘

馬郡の刑部家の宅地の例を比較しますと、面積はほぼ同じ、東海道北側に沿っていることもほぼ同じですが、篠原地内の方が少し高く設定されているようです。

同氏所有の地券の中に「荒田」と表記されて、地価が示されていないものもあります。“七ヶ年継続”と付記されているので災害を受けて耕作ができない状態を表しているものでしょう。

明治十九年になると「登記簿法」が公布され、土地台帳規則ができました。これにより地券は明治二十二年に廃止されることになりました。

# 姓氏(名字)について

会員 鈴木 稔

小学生当時の国史教科書に、川中島合戦の物語が有り、参考書の上杉、武田、西氏の系図を見て興味が湧き、今でも姓氏(名字)について強い関心をもっています。

韓国の姓氏は二七〇余りであるが、日本では十三万位あると言われています。そこで日本の姓氏について調べたのでその一端を報告します。大昔は識らず、大和朝廷時代に至る王族、貴族の間においても鬭争(王申の乱、蘇我、物部、中臣、氏等の争い)、天孫族、在地族、帰化族に従前の姓及び皇族の臣籍降下に伴い姓を受

## 里程標 (りていひょう)

里程標とは距離を記して道路、線路のわきに立てた標識をいいます。この里程標(石標)が篠原町字西茶屋の鈴木某家に保存されていることがわかりました。高さ60cm、縦横20cmの大きさですが、下部に欠けた跡がみられ、もう少し高かったように思います。「里程標」「静岡県」「距静岡市道路元標二拾三里」の彫がありました。家人の話では、「家の門のわきに立っていたが、道路をアスファルト工事する時取り外された。その後回収されなかったので、庭の隅に置いてある」とのことでした。

『ふるさと百話2』に「県庁前の教導石」が載っています。これには「里程路標」「静岡里程元標より各地里程」とあります。明治十九年七月建設のもので

大正14年の静岡県里程標には、「篠原」の名があり、篠原に里程標が存在していたことを示しています。

これらから、里程標は明治時代に静岡県により設置されました。そして県庁前からの距離を石に刻み、県内各地に置かれたものと思われます。設置場所は、駅、郵便、役所、陸運会社、高札場展示場等の肝要にして便宜の地が選ばれました。

宮城県白石教育委員会刊の『道ばたの碑』によると明治22年頃に仙台市から一里ごとに標識を立てたようで、同市には「距仙台元標〇〇里」とした石標が十三里、十四里、十五里の三本が記録されている。このように県庁所在地などを中心にした里程標が他の地方でも建てられたものがあるのではなかろうかと書かれています。

2001年浜松市石造文化財所在目録を見ると、この里程標は他の地区には記録がなく、大変貴重なものと思われます。

けた人達がいいます。

天慶の乱(九三五〜九四一)この頃より武家が勢力をつけていきます。以後源平時代、鎌倉幕府、南北朝時代、室町時代、戦国時代、織豊期、徳川幕府と移行し、明治維新に時世は変わりました。

源姓は姓氏を賜った先祖の天皇の名を冠し〇〇源氏、〇〇源氏と言いつづかれています。嵯峨、仁明、文徳、清和、陽成、光孝、宇多、村上等多いです。

清和源氏(武家社会)にはこの流れが多く天慶の乱の経基に始まり、奥州の争乱より頼義、義家、義光、保元、平治の乱から源平争乱にか

けて為義、義朝、為朝、義平、頼朝、範頼、義

経、行家。鎌倉幕府に頼家、実朝、栄枯盛衰を経て、本流は絶えるが、枝葉は多く残ります。新田、山名、里見、大館、足利、斯波、一色、吉良、今川、畠山、岩松、細川、佐竹、武田、南部、最上、大崎、小笠原、石川、村上、森、松平、徳川、酒井、島津、他多数有ります。

平氏にも源氏と同様に〇〇平氏、〇〇平氏が有ります。桓武、仁明、光孝、文徳等、数家有ります。

桓武平氏(高棟王の家系)が公家で源平期に時忠、時実、以下西洞院、安居院、烏丸、平松他。高見王の家系は武家となり、天慶の乱の国

香、良兼、良将、良文、良茂、貞盛、将門、下つて保元、平治より源平争乱に清盛、家盛、頼盛、教盛、忠度、重盛、宗盛、知盛、重衡、維盛、等 諸流に織田、宗、熊谷、北条、大仏、千葉、三浦、和田、佐原、芦名、長尾、大庭、伊勢、相馬、秩父、江戸、土肥、小早川、他続きます。

(尊卑分脈、系図  
纂要を引用)

浜風会会報第15号  
 浜松市篠原公民館同好会「浜風会」  
 (篠原地区郷土の歴史を学ぶ会)  
 編集委員 委員長 鈴木清  
 鈴木義雄 鈴木幹久 中山清  
 鈴木忠 山下勝彦  
 発行責任者 山下勝彦  
 発行平成21年7月1日  
 連絡先: 篠原公民館気付